

関東地区福祉研究発表会

技

究

令和5年 8月31日(木)

主催 関東地区福祉高等学校長会
共催 栃木県高等学校教育研究会福祉部会
会場 佐野商工会議所
後援 栃木県教育委員会 栃木県
栃木県介護福祉士会 佐野商工会議所

目 次

1	令和5年度関東地区福祉研究発表会実施要項	2
2	関東地区福祉研究発表会 実施要綱	4
3	館内案内図	5
4	メイン会場 会場図	6
5	生徒の皆さんへ	8
6	介護技術部門 出場の生徒さんへ	9
7	福祉研究部門 出場の生徒さんへ	10
8	出場者一覧	11
9	発表進行表	13
10	関東地区福祉研究発表会（介護技術部門）課題	14
11	関東地区福祉研究発表会（福祉研究部門）課題	15
12	令和5年度関東地区福祉研究発表会 介護技術部門物品・配置図	16
13	審査規準・基準	18
14	福祉研究部門 研究要旨	19
15	関東地区福祉研究発表会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて	21
16	会場および会場図	22

令和5年度 関東地区福祉研究発表会実施要項

- 1 目 的 関東地区の高等学校で福祉を学ぶ高校生が、学校という枠を越えて学ぶ機会を通して、日頃から学習してきた知識や技術を基礎とし、さまざまな視点から、自立生活支援の過程や方法を創造し、福祉を深く考察する力や課題発見、研究等の様々な能力を育成することを目的とする。
また、関東地区内で福祉を教授する教員の指導力向上の場とする。
- 2 主 催 関東地区福祉高等学校長会
- 3 開催県 栃木県（実行委員会事務局：栃木県立佐野松桜高等学校）
- 3 日 時 令和5年8月31日（木）9：00～16：00
- 4 会 場 佐野商工会議所
〒327-0027 栃木県佐野市大和町2687-1
- 5 審査規定 実行委員会で作成中
- 6 日 程 9：00 受付・競技順抽選・審査委員打合せ（～9：25）
9：10～ 9：25 会場下見（選手）
9：30～ 9：50 開会式
10：00～11：45 介護技術部門
12：00～13：00 昼食・審査
13：15～15：00 福祉研究部門
15：00～15：30 交流会・審査
15：40～16：00 閉会式
(※参加数により終了時刻は前後します。現時点の予定時刻です)
- 7 出場者 **【介護技術部門】**
関東地区内の高等学校で福祉を学ぶ生徒
(1チーム同一校2～3名とし、競技は2人とする。)

【福祉研究部門】
関東地区内の高等学校で福祉を学ぶ生徒
(1チーム同一校複数名を可能とし、発表者は3名とする。)
※介護技術部門、福祉研究部門ともに重複して出場することを認める。
- 8 参加申込 **【介護技術部門】**
各都県代表校1校とする。
【福祉研究部門】
各都県代表校1校とする。

9 審査方法

【介護技術部門】

課題に対する介護技術等について、評価項目を参考に総合的に審査し、順位づけを行う。評価項目については、実行委員会の審査部が作成する。

【福祉研究部門】

研究発表等について、評価項目を参考に総合的に審査し、順位づけを行う。評価項目については、実行委員会の審査部が作成する。

審査員

淑徳大学教育学部	こども教育学科	教授	矢幅	清司	様
日本認知症ケア学会	理事		永島	徹	様
栃木県老人福祉施設協会	理事		小松原	利英	様
栃木県介護福祉士会	会長		谷口	美智	様
栃木介護福祉士専門学校	教務課長		武藤	清子	様
佐野日本大学短期大学	准教授		久保	由佳	様
宇都宮短期大学	専任講師		佐藤	大輔	様

10 表彰

各部門で、最優秀賞1チーム、優秀賞1チーム、その他各種賞が授与される。
※介護技術部門についてと最優秀賞受賞校は、後日開催される、全国高校生介護技術

コンテストに出場する権利を有する。優秀賞受賞校は、全国高校生介護技術コンテストの出場補欠の権利を有する。

11 来賓

- ・文部科学省初等中等教育局参事官（高校学校担当）付産業教育振興室
教科調査官 辻本 智加子 様
- ・厚生労働省社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室
室長補佐 岩本 博 様
- ・厚生労働省社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室
介護福祉専門官 鈴木 真智子 様
- ・栃木県教育委員会事務局 高校教育課
課長 山下 拓男 様
- ・栃木県教育委員会事務局 高校教育課
指導主事 中村 美樹 様
- ・栃木県保健福祉部高齢対策課 介護サービス班
班長 藤本 延生紀 様

12 課題

別紙参照

13 その他

- ・コロナウイルス感染症の感染状況により、開催方法は変更になることがある。
- ・今後のスケジュール等については別途通知する。

関東地区福祉研究発表会 実施要綱

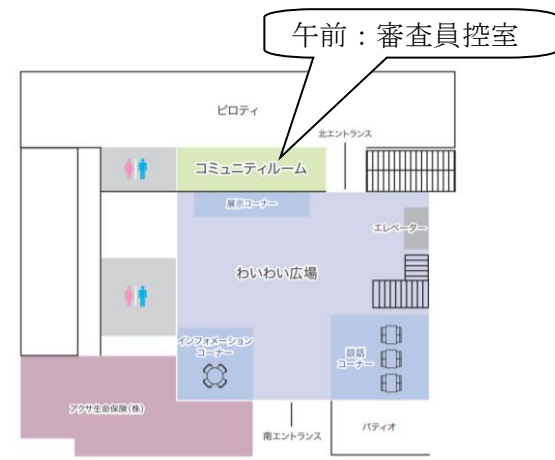
- 1 目的 関東地区の高等学校で福祉を学ぶ高校生が、学校という枠を越えて学ぶ機会を通して、日頃から学習してきた知識や技術を基礎とし、さまざまな視点から、自立生活支援の過程や方法を創造し、福祉を深く考察する力や課題発見、研究等の様々な能力を育成することを目的とする。
また、関東地区内で福祉を教授する教員の指導力向上の場とする。
- 2 主催 関東地区福祉高等学校長会
- 3 実行委員会
開催県会長校の校長を実行委員長とした「関東地区福祉研究発表会実行委員会」を組織し、都県代表学科主任等がメンバーとなり、実行委員会として企画・運営にあたる。
- 4 実施方法
 - (1) 介護技術部門
 - ①出場資格 関東地区内の高等学校で福祉を学ぶ生徒（1チーム同一校2～3名とし、競技は2名とする。）
 - ②利用者役 福祉の高等学校教員・生徒
 - ③課題 「A 身じたくの支援 B 移動の支援 C 食事の支援 D 排泄の支援 E レクリエーションの支援」のうち1つまたはA～Eを組み合わせた課題を実行委員会の作問担当が作成する。
 - ④時間 実行委員会で決定する。原則として、全国大会に準ずる。
 - (2) 福祉研究部門
 - ①出場資格 関東地区内の高等学校で福祉を学ぶ生徒（1チーム同一校複数名を可能とし、発表者は3名とする。）
 - ②発表方法 プレゼンテーションを行う。
 - ③課題 実行委員会の作問担当が作成する。
 - ④時間 実行委員会で決定する。
- 5 審査方法
 - ①審査 評価項目を参考に総合的に審査し、順位づけを行う。
評価項目については、実行委員会の審査部が作成する。
 - ②審査員 高等学校の福祉教育に理解の深い学識経験者・現場経験者・高等学校教員等をもってあてる。原則として、審査員複数名で審査にあたる。
なお、審査員は、実行委員会で選出し、実行委員長が委嘱する。
- 6 表彰 各部門で、最優秀賞1チーム、優秀賞1チーム、その他各種賞が授与される。
※介護技術部門について最優秀賞受賞校は、後日開催される、全国高校生介護技術コンテストに出場する権利を有する。優秀賞受賞校は、全国高校生介護技術コンテストの出場補欠の権利を有する。
- 7 その他
 - (1) 個人情報については、発表会の運営管理の目的に使用し、事前に生徒・保護者に理解を得る。
 - (2) 広報及び記録のため、主催者側で動画及び写真の撮影を行う。

附則

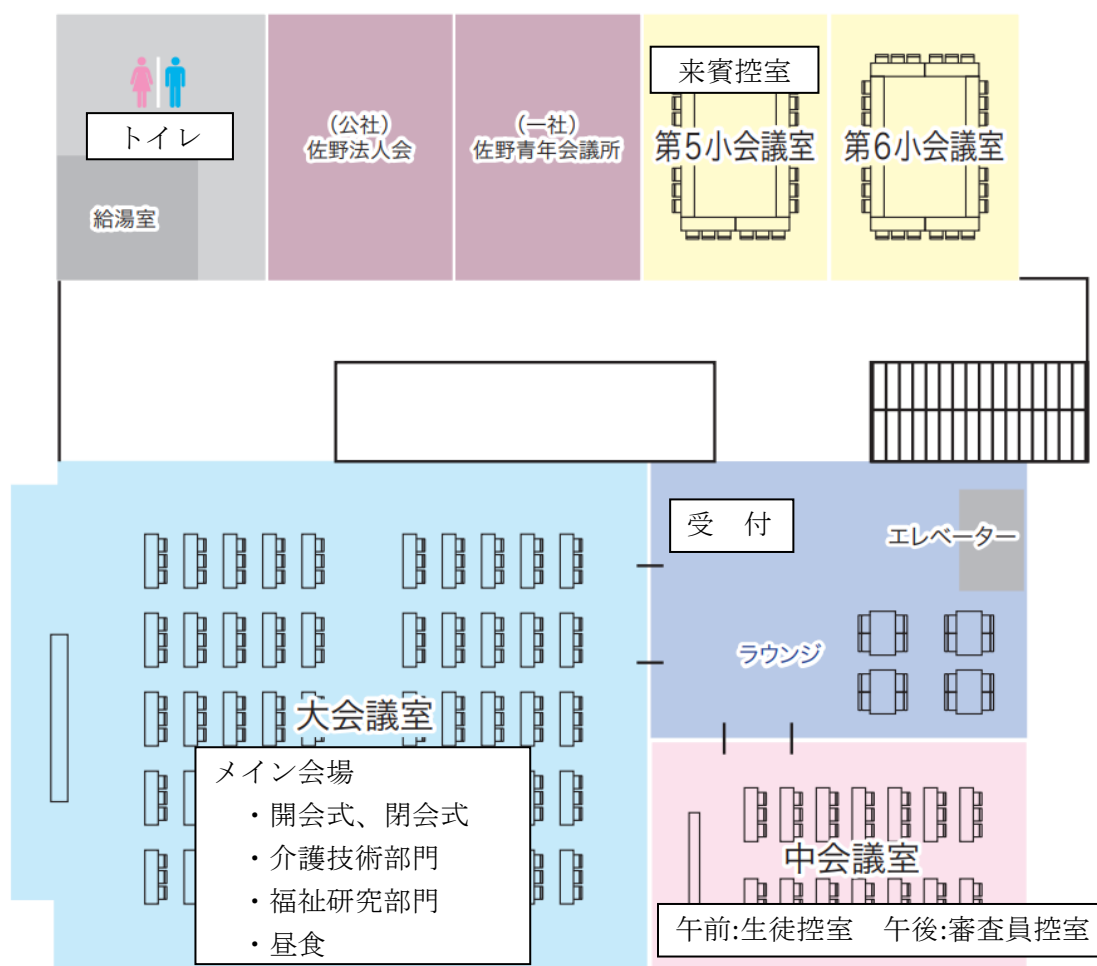
- 1 この規定は、令和 4年 12月 2日から施行する。

館内案内図

< 1F >

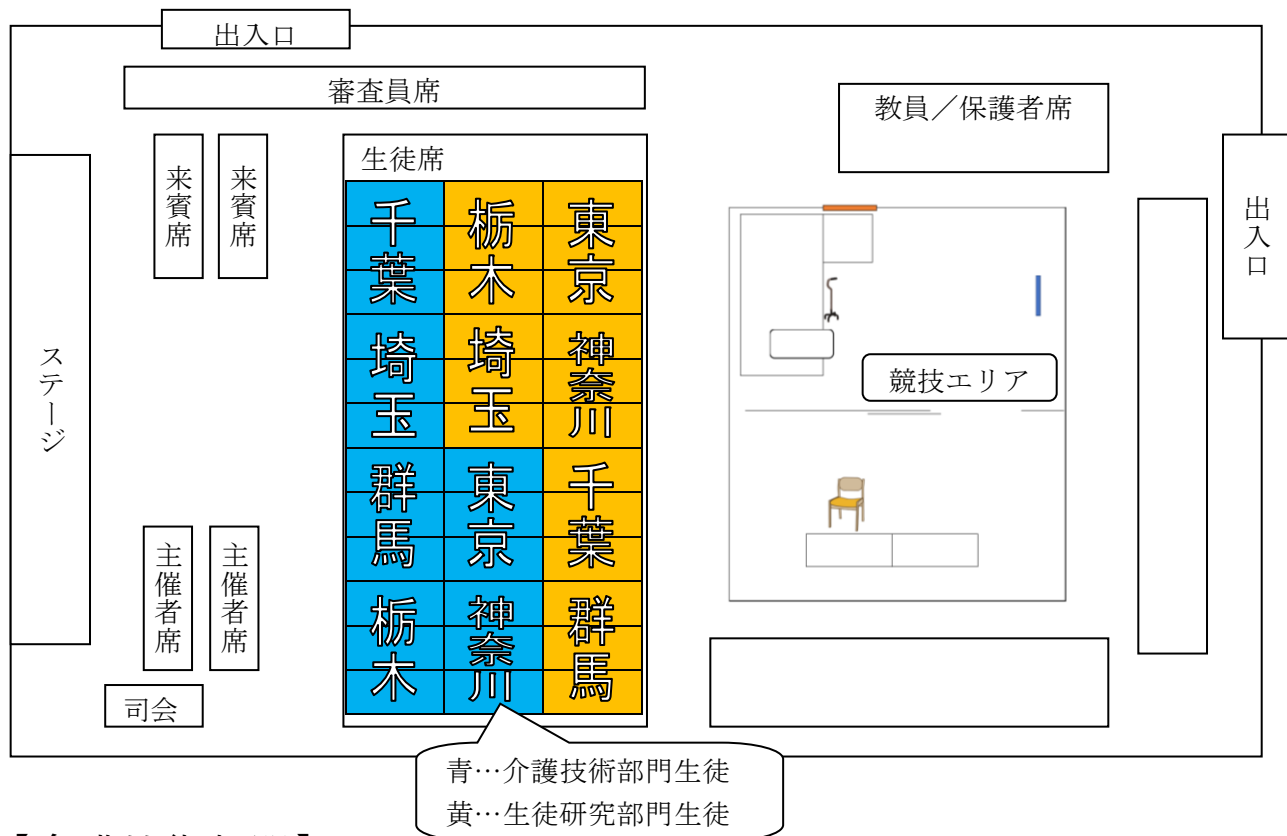


< 3F >

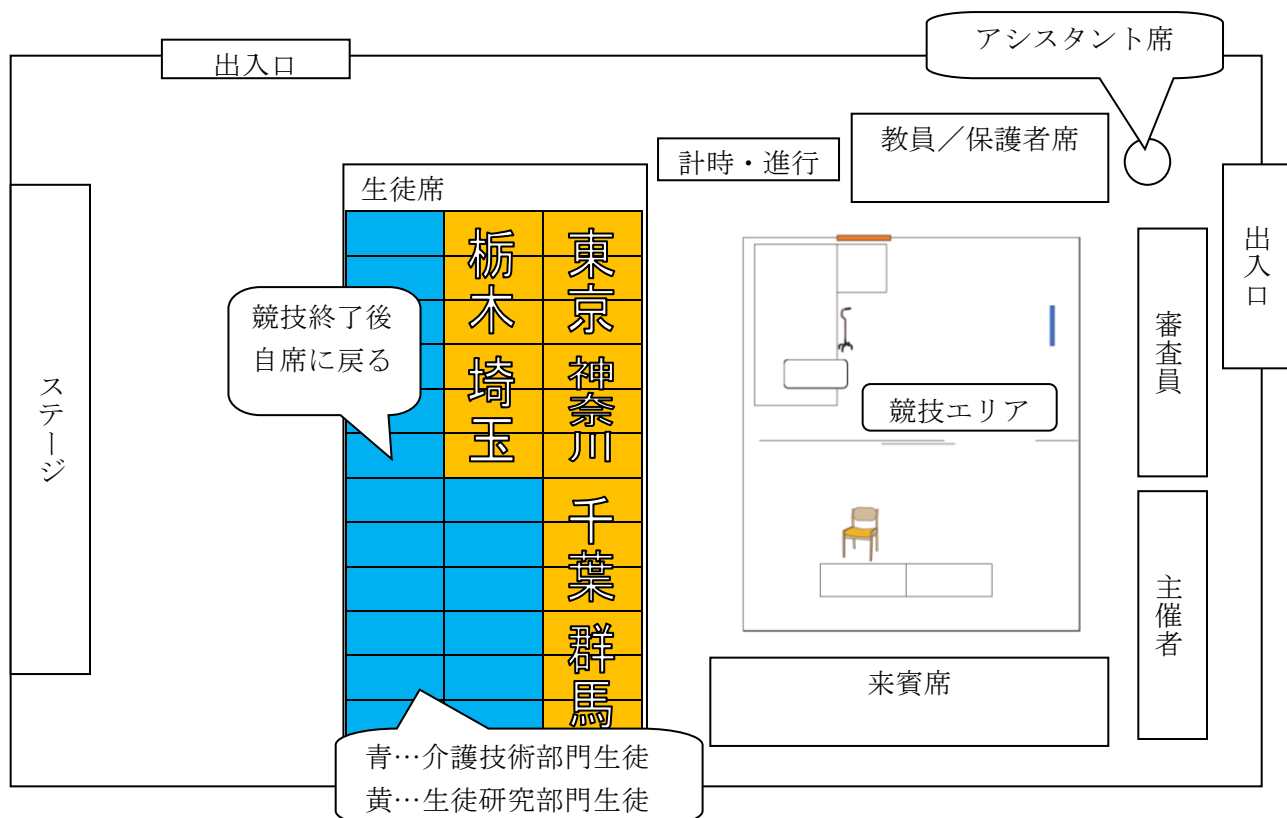


メイン会場 会場図

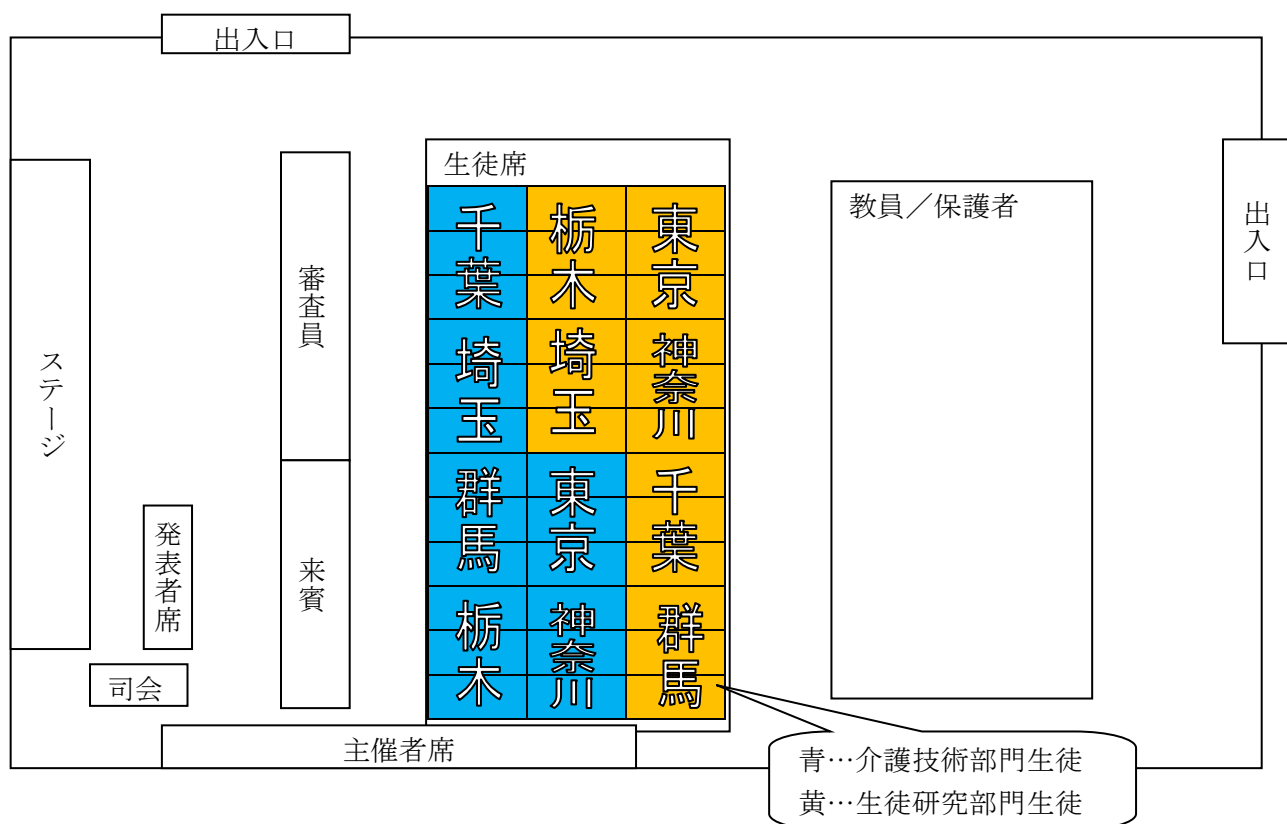
【開会式】



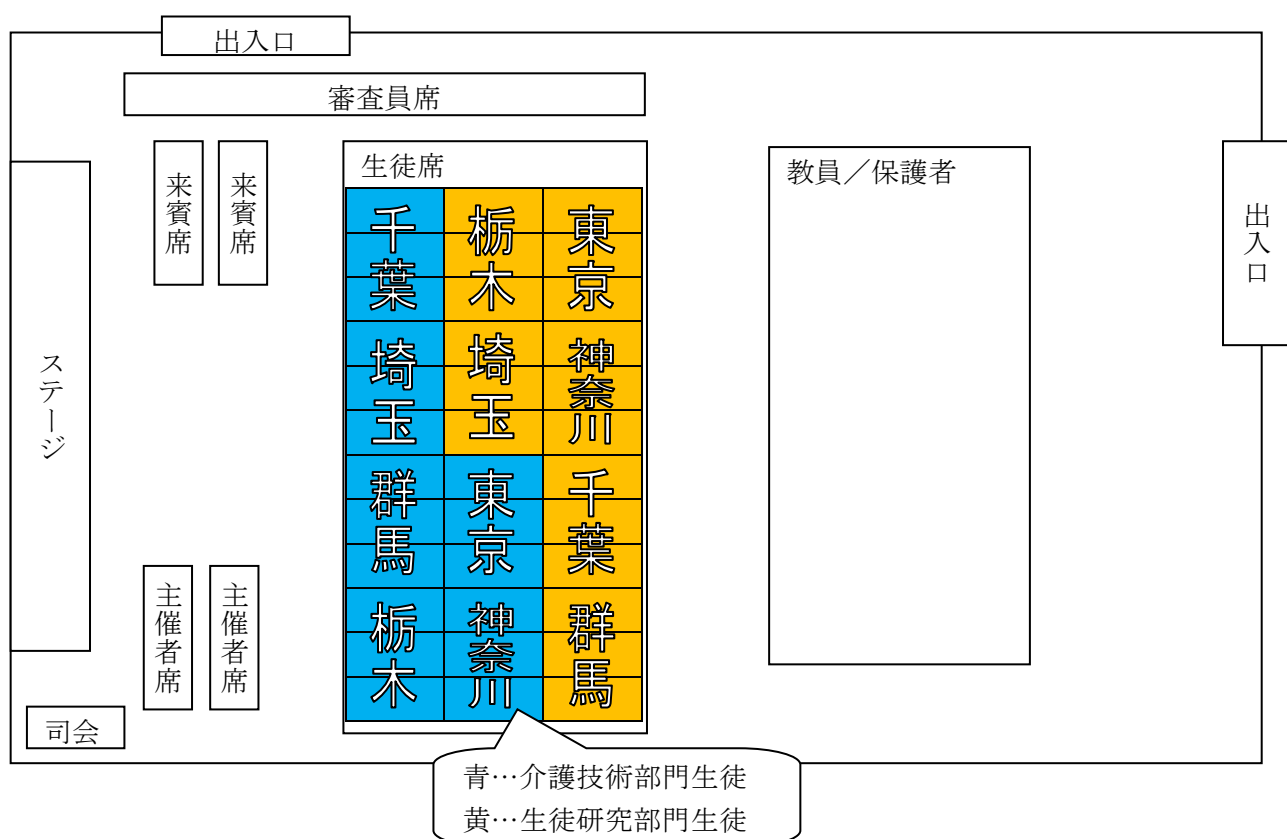
【介護技術部門】



【福祉研究部門】



【閉会式】



令和5年度関東地区福祉研究発表会出場者一覧

【介護技術部門】

代表都県	学校名	生徒名
東 京	東京都立野津田高等学高校	
神奈川	神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	
埼 玉	埼玉県立誠和福祉高等学校	
千 葉	千葉県立松戸向陽高等学校	
群 馬	群馬県立吾妻中央高等学校	
栃 木	栃木県立佐野松桜高等学校	

【福祉研究部門】

代表都県	学校名	生徒名
東 京	東京都立野津田高等学高校	
神奈川	神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	
埼 玉	埼玉県立戸田翔陽高等学校	
千 葉	千葉県立長狭高等学校	
群 馬	群馬県立伊勢崎興陽高等学校	
栃 木	栃木県立佐野松桜高等学校	

発表進行表

<介護技術部門>

時間（7分+アピール2分）	学校名
10:15～（10:30）	高等学校
10:30～（10:45）	高等学校
10:45～（11:00）	高等学校
11:15～（11:30）	高等学校
11:30～（11:45）	高等学校
11:45～（12:00）	高等学校

<福祉研究部門>

時間（10分）	学校名
13:05～（13:20）	高等学校
13:20～（13:35）	高等学校
13:35～（13:50）	高等学校
14:00～（14:15）	高等学校
14:15～（14:30）	高等学校
14:30～（14:45）	高等学校

令和5年度関東地区福祉研究発表会（介護技術部門）課題

課題	状況	梅田源三郎さん（73歳・男性）は、2年前に軽い脳梗塞を発症し、治療の結果、後遺症も残らず自宅に戻ることができた。1年前に再び脳梗塞を発症し、後遺症として右側に手足の感覚障害が残った。退院後は自宅に戻ったが、コンロの火を消し忘れてしまったり、階段から転落して顔に怪我をしたり、日中1人で過ごすことが困難になり、介護老人保健施設に入所することになった。梅田さんは常々「人の世話になるぐらいだったら死んだほうがましだ」と入所には否定的な態度をとってきた。入所後は、自室に引きこもることが多く、会話はほとんどない。今日の昼食は、施設にお寿司屋さんが来てお寿司をふるまう年に一度のイベントが開催される。担当職員は、梅田さんにもイベントに参加してもらいたいと考えている。 現在、梅田さんは部屋のベッドで端座位になっています。自分でカーディガンを着ようとしたところ左右の袖を間違えて着てしまい困っているところでした。間違えて着ている洋服を着直した後にフロアまで移動し、席に座っていただいてください。
	健康状態	・脳梗塞の後遺症による右側の手足の感覚障害（しびれ）がある。 ・要介護3 ・認知症高齢者の日常生活自立度 IIa ・障害高齢者の日常生活自立度 A-2
	活動	・利き手：右 ・座位：可 ・移動：一部介助（最近、下肢の筋力低下によるふらつきが見られる） 4点杖を使用 ・移乗：一部介助（介護者の支え等があれば可能） ・食事：自立（健側で箸を使用、食事を途中でやめてしまうこともある） ・入浴：一部介助（浴槽に入る動作等に支えが必要） ・排泄：一部介助（尿意・便意はありトイレを使用するが介助者の支え等が必要、夜間のみリハビリパンツを着用している） ・更衣：一部介助 ・整容：一部介助（洗顔等は可能だが、爪切りや髭剃りについては声かけを含む支援が必要） ・コミュニケーション：積極的にコミュニケーションはとらない
	参加	・日中は自室にすることが多く、食事の時以外はあまりフロアに出てくることはない ・1人だけ気の合う男性利用者がおり、食後に話をすることがある ・フロアで行われるレクリエーション（特に塗り絵や貼り絵、競争ゲーム等）には意欲的ではない ・息子が面会に来ると、「早く帰れ」と言いながらも店の様子を聞いたり嬉しそうである
	個人因子	・73歳 男性 ・息子が2人 ・寿司屋の2代目として1年前まで働いていた ・職人気質で自分の仕事に誇りを持っている ・最初に倒れた際は、リハビリテーションに励み、再び寿司を握れるようになった ・2度目に倒れた際は、右側の手足に感覚障害が残り、引退を決意 ・引退後は、息子に店を引き継いだ ・商店街の店主たちの集まりに自慢の寿司を握って差し入れたり、困った人には声をかけるなどさりげない気配りができ、慕われていた
	環境因子	・妻は3年前に他界 ・入所前は店舗兼自宅の2世帯住宅に長男（3代目）家族と住んでいた ・次男は県外で会社員をしている ・長男は月に2回、店の定休日に面会に来る ・次男は、不定期で面会に来る

令和 5 年度関東地区高校生福祉研究発表会（福祉研究部門）課題

介護技術部門の事例課題をもとに、興味関心をもったことについて研究を行い、その成果を 10 分間で発表する。

<発表方法>

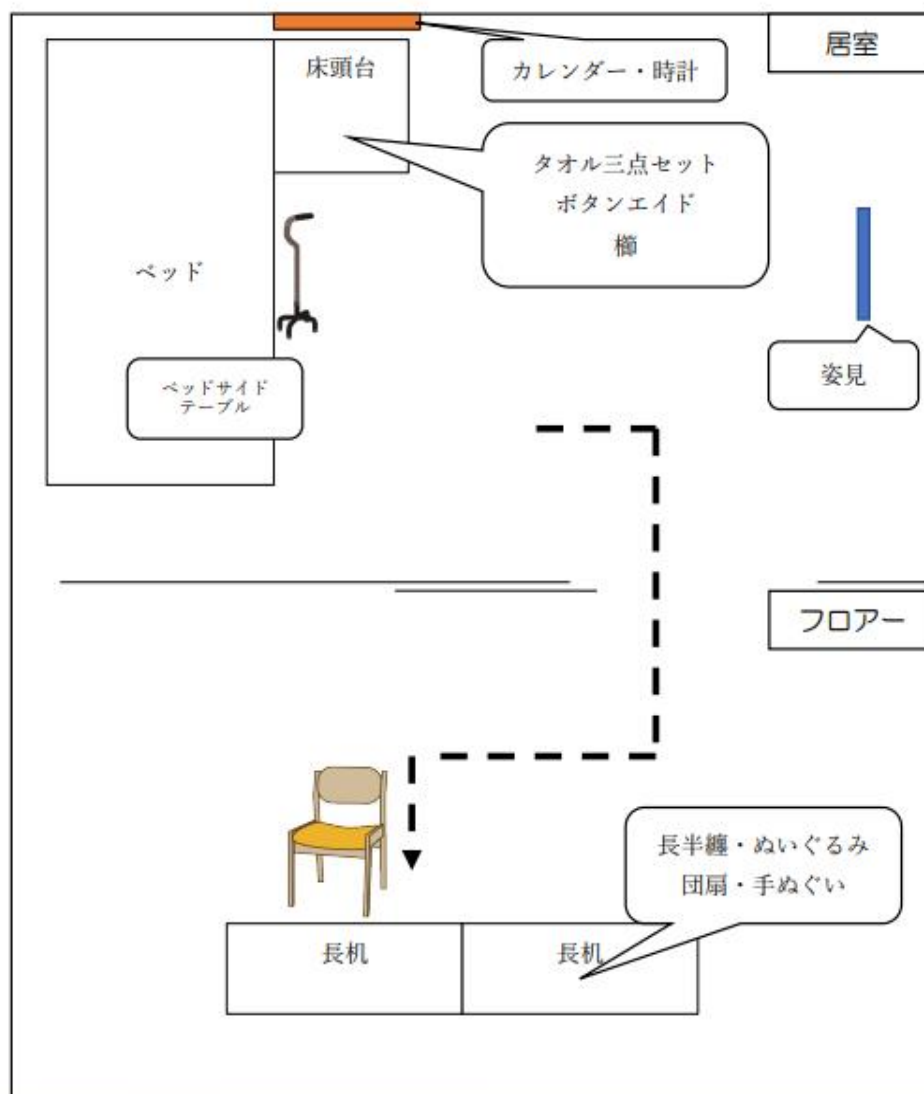
- ・発表方法は PowerPoint を使用する。（音声や動画の使用可）
- ・研究の要旨を 300 字程度にまとめ、8 月 24 日（木）正午までに提出する。

令和5年度関東地区福祉研究発表会 介護技術部門物品・配置図

手動ベッド・マットレス ・サイドレール（片側介助 バー） 	ベッドサイドテーブル 	床頭台 
四点杖 	イス 	長机 
カーディガン 	櫛 	
カレンダー 	長半纏（2枚） 	施設のぬいぐるみ 
団扇（2つ） 	タオル三点セット 	ボタンエイド 



<会場図>



審査規準・基準

【介護技術部門】

観点	規準	基準	
知識・技術	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	福祉に関する科目で学んだ知識と技術を統合し、根拠に基づいた適切かつ安心・安全・安楽な介護及び支援の方法を身につけている。	
思考・判断・表現	課題より福祉に関する問題を発見し、高い倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決しようとし、その過程を適切に表現している。	①	利用者の生活課題をとらえ、倫理観を踏まえ合理的かつ創造的な身体介護を考え、実践できている。
		②	利用者の生活課題をとらえ、倫理観を踏まえ合理的かつ創造的な支援を考え、適切なコミュニケーションがはかられている。
主体的に学習に取り組む態度	自ら発見した問題について、人々の尊厳の保持と自立を目指し研究するとともに、共生社会の実現に向けて適切かつ効果的な解決方法を考察するための働きかけをしている。	①	利用者のアセスメントを正しく行っており、その人らしい生活を送ることができるよう手立てを考え、それを実践している。
		②	事例課題に取り組むにあたり、学校という枠を超えて、さまざまな人、機関、専門職等と連携を図り、広い視野をもって実践している様子が伺える。

【福祉研究部門】

観点	規準	基準	
知識・技術	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	介護福祉や福祉社会の諸課題について、適切な問題を設定し調査を行い課題解決に必要な知識を身につけている。	
思考・判断・表現	課題より福祉に関する問題を発見し、高い倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決しようとし、その過程を適切に表現している。	①	事例課題より研究したい題材を発見し、研究目的を達成するための研究過程や研究方法を考え、研究結果に対して考察を深めている。
		②	研究過程や研究方法、思考過程を適切に表現し、発表できている。
主体的に学習に取り組む態度	自ら発見した問題について、人々の尊厳の保持と自立を目指し研究するとともに、共生社会の実現に向けて適切かつ効果的な解決方法を考察するための働きかけをしている。	①	研究の仮説を検証するために何度も調査を繰り返し、考察を重ねている。また、その様子が発表内容に含まれている。
		②	研究テーマに対しての問題提起が適切であり(根拠がある)、すでに問題解決に向けての活動を実行している。

令和5年度関東地区福祉研究発表会【福祉研究部門】研究要旨

※提出順

学校名	群馬県立伊勢崎興陽高等学校
テーマ	心の環境を変える支援とは
発表者	
指導教員	
要 旨	私たちは梅田さんが毎日楽しく生き生きと過ごしていただくために、どのような支援が必要か考えました。梅田さんは今まで自分ができていたことが誰かの介助なしではできなくなってしまったことが原因でストレスとなり、生きる気力が低下しているのではないかと考えます。できることが増えれば笑顔も増えるのではないかと考え、まずは生活していく上で欠かせない「排泄」から梅田さんご自身でできることを探し、自立生活に向けた第一歩を踏み出していただければと思いました。「環境を少し変えるだけでその人の自立につながる」ことを今回の研究を通して知っていただき、誰もが自分らしく、より生きやすい社会になることを願っています。

学校名	栃木県立佐野松桜高等学校
テーマ	できることを増やす そして活かす
発表者	
指導教員	
要 旨	梅田さんの現在の状況をふまえ、エンパワメントの視点から支援方法を考案しました。梅田さんがひきこもりになるのを予防し、充実した生活を実現するために、私たちが考えた支援方法は、「食事リハビリテーション」と「お寿司レクリエーション」です。 食事リハビリテーションでは、食事を中断してしまう原因を見だし、様々なリハビリ・自助具の活用などによって、食事をより豊かにするためのオリジナルプランを考案しました。お寿司レクリエーションでは、梅田さんの寿司職人としての経験を生かした、感覚障害に配慮したレクリエーションを考案し、実際に私たちも体験することで、より梅田さんがやりやすいよう工夫を施しました。 私たちはこれらの2つの支援方法を通して、梅田さんの QOL の向上が期待できると考えました。

学校名	埼玉県立戸田翔陽高等学校
テーマ	梅田さんの明日へ
発表者	
指導教員	
要 旨	「梅田さんに寿司のイベントに参加してもらいたいって職員さんがいっているけれど、それって梅田さんにとっていいことなのかな」とメンバーが発した一言から私たちの研究が始まった。今回の研究では、梅田さんの「今」の心理状態を障害受容の混乱期にあたりと理解して、「現在の心理状態で寿司イベントへの参加は梅田さんの QOL の向上にはつながらない」と考えた。研究方法として文献や施設職員の方、寿司職人の方へのインタビュー調査を行った。今回の研究を通して梅田さん本人の意思決定を尊重することが前提だが、支援者として「今」できることと、「数年後の将来」梅田さんに生きがいを感じていただくための環境へのアプローチを考察した。

学校名	神奈川県立二俣川看護福祉高等学校
テーマ	感覚障害について ～疑似体験を通しての気づき～
発表者	
指導教員	
要 旨	私たちは利用者様の課題について読み込んだところ、脳梗塞の後遺症として右側の手足に「感覚障害（しびれ）」があることが確認できた。感覚障害には、しびれやじんじん・ぴりぴり感などが自発的にみられる「異常感覚」がある。そこで、異常感覚に関し疑似体験を通してその状態を理解するようにした。その際、本校卒業生である作業療法士の方にアドバイスをいただき、一定時間の正座や冷水に手足を浸した後、日常生活動作である歩行、階段昇降、座位から立位などの動作を行い、麻痺との相違性について確認した。これらの疑似体験を通じて、感覚障害、特に異常感覚のある利用者様の介護支援において、利用者様の立場から留意すべき点に関して提案した。

学校名	千葉県立長狭高等学校
テーマ	安全な杖歩行動作
発表者	
指導教員	
要 旨	歩行機能に関する研究を行いました。着目した点は、「杖」「重心移動」「歩行のメカニズム」についてです。その３点について先行研究を行い、歩行時にどのような重心移動とからだの揺れ方をするのか検証しました。 重心の揺れ方は、目に見えないため、重りを付けたヒモをお腹の位置から垂らし、重りがどのように揺れるのかを検証しました。 杖の突き方や適切な重心移動、歩行のメカニズムをしっかりと理解し、支援に加えると、安心で安全な歩行が可能になるという結論にたどり着きました。また、安心で安全な歩行が可能になることで、自宅復帰にもつながると考えました。

学校名	東京都立野津田高等学校
テーマ	在宅復帰に向けて
発表者	
指導教員	
要 旨	私達は、梅田さんがこれから先、生きていく上でこういった生活課題が起こり得るのか考え、アプローチ方法や具体的な解決案、そして、これから先こういった目標を設定し、どのような支援をするのが望ましいか、リハビリ職の方と連携して研究を行いました。 その中でも特に、脳梗塞の後遺症として、「右側の手足に感覚障害が残ってしまった。」という所に着目し、感覚障害の症状について調べ、梅田さんにとってこういったアプローチが望ましいのか仮説を立て、そこから具体的な方法や手立てを探り、これから先の人生をより良くする為の方法や、こういった支援を行うのが良いか全員で考えました。

関係者各位

関東地区福祉研究発表会実行委員長

令和5年度関東地区福祉研究発表会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

関東地区福祉研究発表会について、参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおりに対応します。

- 1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い
 - (1) 福祉研究発表会のプログラムに掲載いたします。
- 2 福祉研究発表会結果（記録）等の取り扱い
 - (1) 福祉研究発表会の記録係を通じて公開されます。
 - (2) 認められた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
 - (3) 福祉研究発表会のプログラムに掲載される個人情報とともに、報告書に掲載いたします。
 - (4) 全国福祉高等学校長会及び関東地区福祉高等学校長会の広報等に掲載されることがあります。
 - (5) 記録等は、次年度以降の報告書等に掲載されることがあります。
- 3 肖像権に関する取り扱い
 - (1) 記録係及び認められた報道機関等が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
 - (2) 記録係及び認められた報道機関等が撮影した映像が中継または録画放映されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
 - (3) 全国福祉高等学校長会及び関東地区福祉高等学校長会の会報等に写真が掲載されることがあります。
- 4 関東地区福祉研究発表会実行委員会の対応について
 - (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
 - (2) 個人情報等の掲載または公開等に関する質問は、関東地区福祉研究発表会実行委員会事務局までご連絡ください。

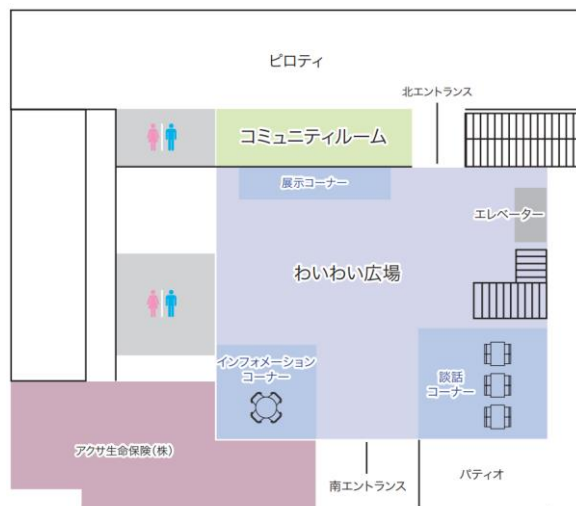
会場および会場図

- 1 会場 佐野商工会議所 大会議室 他
栃木県佐野市大和町2687-1
(佐野駅から徒歩7分)



2 会場図

1 F



3 F

